

トルコの金融市場動向 Weekly Report

【2018年2月17日～2018年2月23日までの推移】

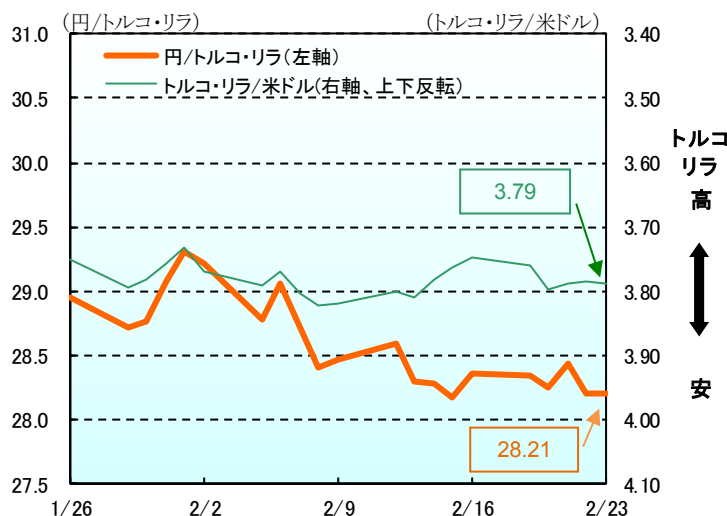
【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は1週間を通して見ると対米ドル、対円で下落しました。またトルコの2年国債金利は低下しました。

トルコ軍は、依然としてクルド人勢力掃討のために越境作戦を続けています。トルコ国境付近にシリアのアサド政権派民兵組織がクルド人勢力の援軍として展開し、トルコ軍との衝突が懸念されやすい状況が続きましました。

トルコ金融市場では、地政学リスクの高まりが懸念材料となり、トルコ・リラは対米ドル、対円で下落しました。一方、トルコの2年国債については、小幅な金利低下となりました。

【トルコ・リラ 為替推移】 (2018年1月26日～2018年2月23日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【2】今週の見通し

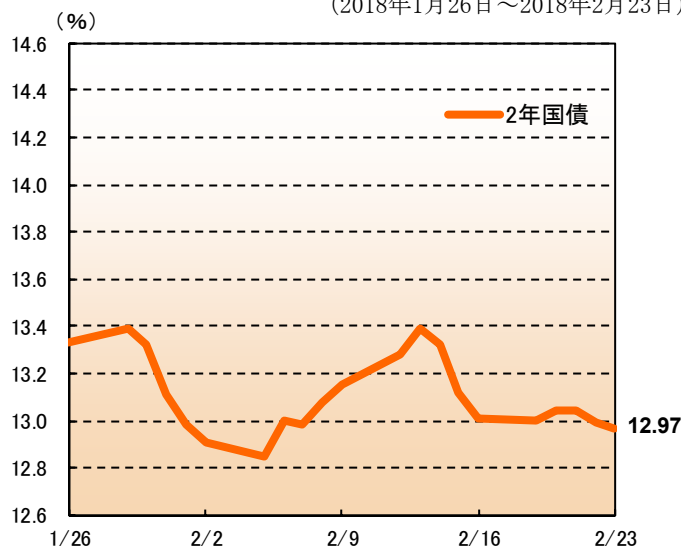
今週は1月貿易収支の発表が予定されています。事前の市場予想では前年同月比で赤字幅が拡大することが見込まれています。

引き続き、トルコとシリアの関係が相場の材料になりやすいと想定します。現時点では、大規模な衝突は無い模様ですが、クルド人勢力はアサド政権に対してシリア正規軍の派遣を求めています。仮に民兵組織よりも強力な戦力を保有する正規軍が派遣され、トルコ軍と衝突が懸念される状況となれば、地政学リスクの高まりが相場の重しとなると考えます。

一方で、アサド政権はロシアの意向にも配慮する必要があることなどから、正規軍の派遣は容易ではないと考えられています。大規模な戦争状態にならないければ、トルコ経済への影響は限定的となると考えられます。

【トルコ 金利推移】

(2018年1月26日～2018年2月23日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>